

# グリーンシーズンにおけるスキー場麓の活用を考える

団体名●石川ゼミナール／代表者名●石川美澄（経済学部地域システム学科・教授）

## はじめに(背景・目的・目標)

本活動の目的は、グリーンシーズンにおける白山セイモアスキー場麓の新たな活用方法を提案・実施することである。白山市には4つのスキー場がある。グリーンシーズン中に営業活動を行っているスキー場は白山一里野温泉スキー場のみであり、白山セイモアスキー場はグリーンシーズンの営業は行っていない。この2つのスキー場は同一企業による運営であるが、経営資源を1つのスキー場に集約するほうが運営側にとってはメリットが大きいと考えられる。したがって、今後白山セイモアスキー場をグリーンシーズンに稼働させることはほとんど期待できないだろう。

しかしながら、スキー場麓の持続可能な地域づくりのためには、通年型の地域経営を検討することが重要である。当該エリアにある個人事業主や企業が年間を通じて安定的な事業を行えたり、閑散期と思われるシーズンに新たな需要や来訪価値を創造したりすることが欠かせない。そこで、セイモアスキー場の麓で宿泊施設を運営するペンシオーネセイモアと連携し、大学生と民間企業による草の根的なグリーンシーズンの活用について検討した。

## 活動内容

主な活動は、ペンシオーネセイモアとの顔合わせと意見交換、SAM白山へのヒアリング(6月、16名参加)、ペンシオーネセイモアとの打ち合わせ(8月、8名参加)、学内ならびにペンシオーネセイモアでの試作と打ち合わせ(7～9月複数回、各5～6名参加)、イベント「SAUNA FESTIVAL」と「ととのい×星空カフェ」の実施(9月、15名参加)、ペンシオーネセイモアへの報告書の提出(10月、15名参加)だった。6月のヒアリング時には、事前に学生たちが考えたアイデアを提示し、代表者やスタッフのみなさんから指摘や質問、助言をいただいた。イベント終了後には今回の活動内容を報告書としてまとめ、事業者へ提出した。

## 成果、結果の考察

2025年9月に開催した2つのイベントは、集客・告知不足により参加者数は少ないまま終了した。この結果を踏まえてメンバー間で反省点や課題を抽出し、趣旨やプログラム等を更新した活動内容を再度検討したが、協議の結果、課題の設定や課題に対するアプローチから抜本的に見直すべきだという結論に至り、活動は9月末で終了した。

## 今後の課題、展望

今後の課題の1つは、グリーンシーズンのスキー場麓が置かれている現状とそれに対する近隣住民や事業者の思いを丁寧にヒアリングしながら、グリーンシーズンの麓での活性化に関する活動の要・不要を検討することであろう。



写真1：施設スタッフから説明を受ける学生たち



写真2：第二部のイベントポスター